

寒さも徐々に和らぎ、春の訪れを感じるところとなりました。166名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子様はここに9年間の義務教育の全課程が修了いたします。感慨もひとしおのことと存じます。お子様のご卒業心よりお祝い申し上げます。また、本日は御多用のところ、小平市教育委員 望月克浩（もちづきかつひろ）様はじめ、多数のご来賓の皆様にご参列いただき、まことにありがとうございます。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんとの関わりは1年間でした。その中で皆さんの姿を象徴する言葉を1つ選ぶなら、私は迷わず\*\*「素直さ」\*\*という言葉を選びます。

そのように感じさせる象徴的だった場面が二つあります。

1つ目は、体育大会の全校練習で見せた入場行進です。1・2年生が見守る中、3年生が見せたあの行進。指先は地面と平行に伸び、振り上げた足は正確に90度を刻んでいるように見えました。166名の心が1つに重なったあの足音の響きは、私の教員人生の中でも、これほど美しい行進を見たことがないと思わせるほど圧倒的なものでした。「後輩に最高の姿を見せよう」という先生の願いを、皆さんが真っ直ぐに、素直に受け止めたからこそ到達できた境地だったと感じています。きっと見守っていた後輩たちは、皆さんの姿を見て自分たちも先輩のように想いを込めて頑張ろうという気持ちになったと思います。

もう1つは、修学旅行での場面です。修学旅行と言え、中学校生活の集大成のような学校行事です。これまで積み重ねてきた中学校生活で身に付けた力を発揮して、3日間を通じて、生徒の皆さんの力で、行事を成功させていくことが大きな目標です。

学年全体での動きや班行動、宿舎での生活などを見てみると、皆さんから「自分たちでやり遂げる」という決意と同時に、「先生の信頼に応えよう」という温かい気持ちと誠実さが伝わってきました。失敗や思い通りにいかないことがあっても、それを誤魔化さず、自分たちで反省し、前を向く。その清々しいほどの「素直さ」に、私は皆さんの人としての成長を感じました。

特別支援学級I組の皆さんもまたとても「素直」で素敵な生徒だと思えます。3年間自分の苦手なことに向き合い、努力を積み重ねてきました。異学年の集団で常に学校生活を送っていることから、上級生から下級生が学ぶという場面が多くなりますが、この1年間は、学級のリーダーとしてよく頑張りました。先日の音楽発表会の時に皆さん一人一人が語っていたメッセージがとても心に残っています。「自立」「コミュニケーション」「前向きな気持ち」「お世話になった人への感謝」「みんなと協力する」「新たなことへのチャレンジ」「苦手なことにもあきらめない」それらの言葉は、皆さんが3年間、自分の課題から逃げずに、素直な心で努力を積み重ねてきた証です。皆さんの歩みは、後に続く後輩たちの確かな道標となりました。

そんな「素直な心」を持つ皆さんに、卒業にあたって一つだけ伝えたいことがあります。それは\*\*「クリティカルシンキング 言い換えると（批判的思考）」\*\*という考え方です。

「批判的」と言うと少し冷たく聞こえるかもしれませんが、そうではありません。これは、目の前の情報や「当たり前」だと思われていることを、鵜呑みにせずに「本当にそうなのだろうか？」と一度立ち止まって問い直す姿勢のことです。これからの時代、AIなどのテクノロジーはさらに進化し、情報が溢れかえります。皆さんのもつ「素直さ」は大きな力ですが、一方で、情報の波に流されない「思考の強さ」も必要になります。

「素直に受け止める心」と「一歩引いて考える知性」。この両輪をもつことで、皆さんはより正しく、より深い答えに辿り着くことができるはずです。

これから歩む道には、向かい風の日もあるでしょう。けれど、忘れないでください。皆さんは一人ではありません。今日、皆さんの背中を見守っている保護者の方々、地域の方々、そして私たち教職員は、いつまでも皆さんの応援団です。困ったときは素直に助けを求め、仲間と手を取り合ってください。皆さんの「素直さ」と「考える力」があれば、未来は必ず切り拓けます。166名の皆さんの前途に、幸多からんことを心より祈念し、式辞といたします。

3年前、緊張とワクワクが入り混じった気持ちを抱えながら入学式を迎えました。3年生の先輩方が歌う校歌を聞いて、私も中学校に入学したんだなあという気持ちが溢れて、泣きそうになりました。それからみなさんと過ごしたこの3年間は私にとってかけがえのない宝物です。

1年生のとき、河原での校外学習は雨で中止になりました。初めての大きな学年行事となったスキー教室は絶対に成功させようと念入りに準備をしました。クラス発表では、先生たちにも協力してもらい、みんなでたくさん笑い合いましたね。

2年生でリベンジした河原の校外学習では、新しいクラスの仲間と力を合わせて美味しいご飯を作りました。少し失敗してしまっても、みんなで残さず食べました。開放的な空間で、普段話さない人と話をして、より仲が深まった気がします。

修学旅行は3年生になったときから一番楽しみにしていました。ミッションを1つでも多くクリアするために奈良の道を全力で走りました。京都ではルート通りに回ることはできませんでしたが、その都度折り合いをつけていい雰囲気旅を終えることができました。

体育大会や合唱コンクールでは、どの学年のときも、どのクラスのときもみんな全力で取り組みました。部活動では、意見をぶつけ合ったり心が折れそうになったりしたこともありましたが、それもいい思い出だと思っています。

今、改めて3年間を振り返ってみると、みんなで成長してきたなあと感じます。先生に怒られたときは、空気を読んで耐え忍ぶことを覚えました。給食は盛られるがままに食べきりました。楽しいときは、みんなで思いきり笑い合いました。どんなときも友だちや先生たちと一緒に楽しい、笑顔にあふれる時間を過ごしてきました。

そんなみなさんと卒業を迎えるにあたり伝えたいことがあります。それは感謝です。私は学級委員長や部長を務める中で、楽しいことも多かったです。そう簡単にはいかず、辛いと感じることもありました。しかし、そんな状況を救ってくれたのはここにいる家族、友達、先生方でした。お父さん、お母さん、私が落ち込んで帰ってきたとき、話を聞いて静かに寄り添ってくれてありがとう。バレー部のみんな、私がイライラしているとき、くだらない話で盛り上がり笑顔にしてくれてありがとう。先生方、私が部のことで悩んでいるとき、たくさん声をかけてくれてありがとうございます。とても元気づけられました。色々言って、困らせてしまったことも多くあったと思いますが、そんなときでも優しく受け止めてくれて、本当にありがとうございます。感謝しています。

私にとってかけがえのない宝物となったこの小平一中での日常を皆さんにも大切にしてほしいと思っています。もしかしたらこれから先、どうしようもなく辛くなる時があるかもしれません。でもそんなときはここにいる仲間を頼ってください。前を向くためのヒントをくれるかは分かりませんが、きっと寄り添ってくれるはずですよ。あるいはくだらないことを言って笑わせてくれると思います。私たちはこれから別々の道を歩んでいきますが、同じ空の下、いつもどこかでつながっています。小平一中で過ごした日々を胸に、みんなで次のステージへの大きな一歩を踏み出しましょう。

令和8年3月19日  
卒業生代表